

農村と都市の地域用水機能に対する住民意識の単純比較

－農村型地域用水と都市型地域用水の比較研究（1）－

Simple Comparison of Consciousness of People on the Irrigation Water's Multi-functional Roles in Urban and Rural Areas

－ Comparative Study on the Irrigation Water's Multi-functional Roles in Urban and Rural Areas (1) －

○橋本岩夫^{*}, 田野信博^{*}, 村島和男^{*}, 瀧本裕士^{**}, 丸山利輔^{*}

HASHIMOTO Iwao^{*}, TANO Nobuhiro^{*}, MURASHIMA Kazuo^{*}, TAKIMOTO Hiroshi^{**}, MARUYAMA Toshisuke^{*}

1. はじめに： 農業用水は、本来の灌漑以外にも数多くの地域用水として、人々の生活と密接な関りを持ってきた。最近、この地域用水機能が急速に見直されつつある。筆者らは、農業用水が持つこのような機能に関する調査研究を行っているが、ここでは、都市と農村の地域用水機能に対する住民意識の差異について単純比較した結果を報告する。都市の代表として、金沢市の市街地を流れる農業用水（対象は辰巳、鞍月、大野庄の3用水、以下「金沢用水」）に関係する住民を、農村の代表として、石川県手取川扇状地を灌漑している手取川七ヶ用水（以下「七ヶ用水」）に関係する住民を取り上げた。

2. 研究の方法： 金沢用水および七ヶ用水地域に、ほぼ同様の内容のアンケート調査を実施し、分析した。金沢用水地域については10地区内の23町会を選定した。これの町会に対して、研究者が分担して町会長をたずね、調査の趣旨を説明し、住民に1戸あたり2通（夫婦別記入）の調査用紙の配布・記入・回収を依頼した。七ヶ用水地域については、土地改良区を通じて、松任市、鶴来町、川北町、野々市町の27集落を対象に、金沢用水の場合と同様、1戸あたり2通（夫婦別記入）の調査用紙の配布・記入・回収を依頼した。

金沢用水の場合、1092世帯に対し、2036通の調査用紙を配布し、1320通を回収した。うち、回答が全く記されていないものを無効とすると、有効回答数は1107通、有効回答率は84%となった。七ヶ用水の場合は、1234世帯に2020通の調査用紙を配布し、1483通を回収した。うち、有効回答数は1371通、有効回答率は92%で、七ヶ用水の方がやや高い有効回答率を示した。

1. 現在の用水の利用状況の比較： 金沢用水と七ヶ用水の関係住民に、現在、この用水をどのように利用しているか、Fig.1に示す19項目について質問し、回答を得た（複数回答）。横軸は有効回答数に対する回答数を示す。全体として、金沢用水よりも七ヶ用水の方が地

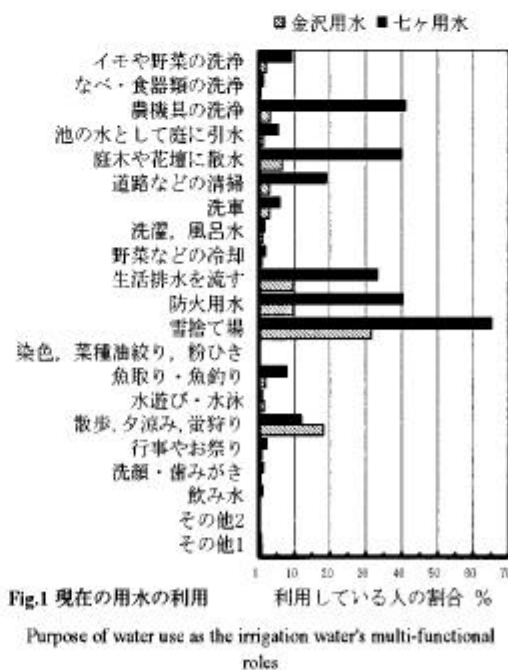


Fig.1 現在の用水の利用
Purpose of water use as the irrigation water's multi-functional roles

*: 石川県農業短期大学 Ishikawa Agricultural College

キーワード：親水、環境保全、環境影響評価

**： 富山県立大学短期大学部 Toyama Prefectural University, College of Technology

されており、降雪の多い北陸ならではの傾向を示す。七ヶ用水では「農機具の洗浄」、「庭木や花壇に散水」、「生活排水を流す」、「防火用水」など、実用面（生活系用水）にも利用されている。これに対し、金沢用水では「水路沿いの散歩・夕涼み、ホタルやコイの鑑賞」など、リクレーシヨンの面（親水系用水）の利用が際だって多く、その他は多くても10%以下であった。なお、両地域とも「雪捨て場」の機能に対する評価が高かったが、金沢市内では部分的に「雪捨て禁止区域」を設けたり、道路に融雪装置がつけられたりしている。また、七ヶ用水地域でも住宅地内には「雪捨て禁止区域」があり、「雪捨て」のできる条件は地域間に差がある。

4. 用水の役割に対する期待の比較： 次に、住民が「地域用水の役割を、どのように考えているか」を知るために、Fig.2 に示す 11項目について調査した。横軸は有効回答数（前述）に対する回答数の割合を示す。多くの項目について、両地域の住民とも「地域用水の役割」が大きいと判断している。「治水」、「生態系保全」、「水質保全」、「日常生活」、「環境保全の機能」については、七ヶ用水地域が金沢用水地域よりもやや高い評価をしている。これに対し、「景観保全」、「安らぎ」、「親水」、「教育・文化」については、金沢用水地域は七ヶ用水地域よりもやや高い評価をしている。特に、「観光資源」では、金沢用水地域の方が際立って高く評価している。このように地域用水の役割に対する期待も、都市と農村では大きく異なることが分かる。

5. 用水で改善が望ましい点の比較 住民が、現在の用水について、改善が望ましいと考えている点を知るために、「用水で改善が望ましい点」を Fig.3 に示す 14項目について質問した。縦軸は有効回答数（前述）に対する回答数の割合を示す。両地域とも「ゴミが多い」が際立って多く、次に「水路に子供が転落する危険」が多かった。地域間に大きな差があるとはいえないが、「害虫が発生する」、「水が少ない」、「水路があるため道路幅が狭い」では、金沢用水が七ヶ用水よりも多く、他の項目では、七ヶ用水の方が多かった。特に、「水質が悪い」、「水路周辺の景観が悪い」、「維持管理費用が負担」は七ヶ用水が金沢用水よりも圧倒的に多かった。このように、都市と農村では「用水の改善が望ましい点」に相違があった。

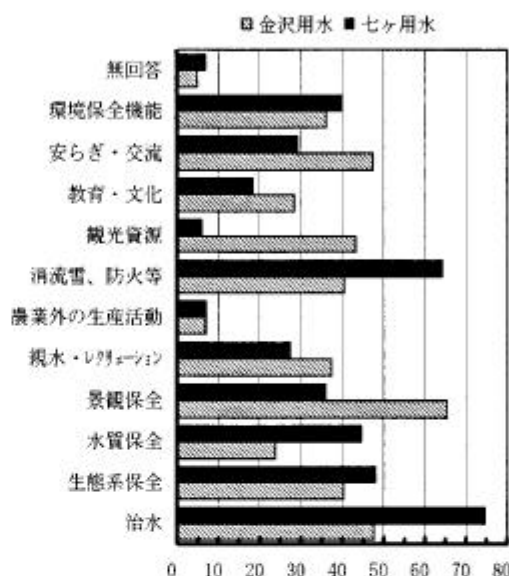


Fig.2 用水の役割に対する期待の比較

Role of water use as the irrigation water's multi-functional roles

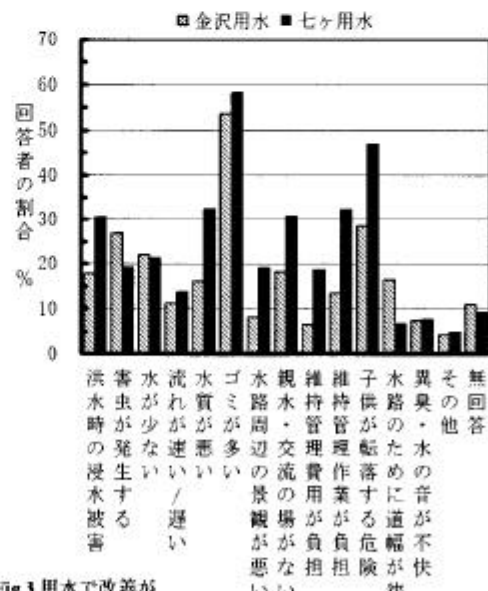


Fig.3 用水で改善が望ましい点の比較

Desired improvement point of water use the irrigation water's multi-functional roles